

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒130 東京都墨田区
東駒形1-16-7
第1ホークプラザ303号
TEL.(03)3625-7307
発行責任者
運営委員長 渡辺孝一

郵便振替口座
東京 5-15754
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

大きな感動のなかで実施 ＝全国協議会設立3周年記念事業＝

全国協議会設立三周年記念事業は、九月二日の記念大会、二日のチャリティーコンサートと、成功裡に終了しました。

共催や後援、協力をいただいた関係者の皆さんの絶大なご支援と、主管をされた神奈川県の間、全国の仲間の奮闘によるものです。

設立

三周年記念大会 記念式典

記念式典の司会は、フジテレビアナウンサーの牧原俊幸さん。主催者を代表して海部会長が挨拶。つづいて、共催をいただいた神奈川県長、長官、横濱市の根本助役から挨拶をいただき、全国協議会の三年間の活動を秋山事務局長が報告。感謝状は、橋本明子さん、国本由利子さん(二人は当日欠席)、ライオンズクラブ国際協会330A地区4Rを代表して稲葉一郎氏に海部会長から贈呈されました。

来賓を代表して、厚生省の東井課長補佐、財団の小池理事長が挨拶され、来場いただいた多数のみなさんが紹介されました。

記念講演

初めに、『私と骨髄バンクボランティア』と題して、ケント・デリカットさんと大谷貴子さんの対談。ケントさんは、ボランティア運動への動機に



熱が入り立ち上がって対談するケントさんと大谷副委員長



県民ホール会議室は全国から三百人の参加者で埋まった。

ついて弟さんが白血病で亡くなったことに触れ、一人でも多くの登録を呼びかけました。つづいて、大石邦子さんが『愛すること、生きること』と題して記念講演。自らの闘病経験をまじえた情熱的な話に、会場は大きな感動に包まれました。

そして最後に渡辺運営委員長が閉会の挨拶をしてしめくりました。

チャリティーコンサート

会場の横浜そごうの新都市ホールには、開店の朝十時から行列ができ、整理券を配る盛況でした。東京の会の鎌田麗子さんが開会の挨拶。中西俊博さんのヴァイオリン演奏と伊勢正三さんの歌は素晴らしく、約二時間のコンサートは、アツという間の感じでした。

記念大会に 参加して

静岡・推進する会
吉永 忍



列席されている様子を拝見し、神奈川県としての取り組みの充実さに対して改めて敬意を表した次第である。骨髄バンク運動は官民が車の両輪となって、それぞれの役割・目標を明確にして、その達成を図っていかねば真の推進は望めない。その点で今後共大いに参考にさせていただきたいと思うし、その成果に期待したいと思う。さらに言うならば、これからは官(行政)に何をしてほしいのかを、民としてはつきり主張すべき時期になって来ているという自覚も必要であろう。

大石邦子さんの講演 「愛すること、生きること」 を聞いて 青森協議会 根井 力夫

自らの体験上の言葉というものが、これほどまでに生々しく、鮮烈に、強烈に聞き手の心に感動的に伝わってくるものか。

大石さんの話の中から、大石さんの生きることへのがんばりが、希望が、明るさが、共に生きていると感じさせてくれた友人達の愛があったか

ただということ。人は一人では生きていけない。明日の我が身は分らない自分が「止まらない汽車」に乗ることになるかも知れない。今、自分にやれることから始めよう。自らに言い聞かせた時間であった。「汽車が止まるまで」

チャリティーコンサートに参加して 岐阜・募る会 水谷 紀子

横浜でのコンサートとても懐かしく、正やん(伊勢正三さん)の声を聴いたとたんあの頃にタイムスリップしてしまいました。「なごり雪」で胸を熱くして、「22才の別れ」で涙した私になってコンサートを楽しませていただきました。

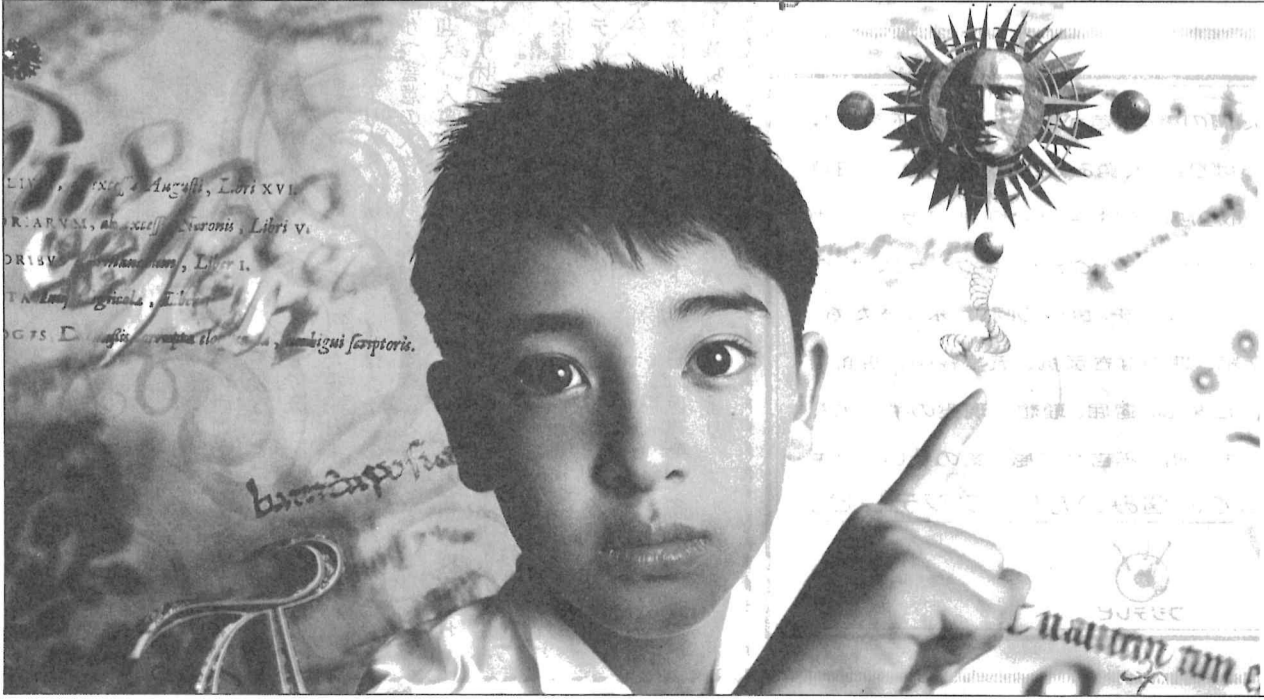
私は、今、骨髄バンクのボランティアをさせて頂いていますが、周りの人がいつも一生懸命なのに、なぜか第三者のようにさめてる自分に自信がなかったのです。でもおしゃべりの中で、「どんな形でもいい、ちょっとお手伝いが出来ればいい。」「小石を投げて小さい輪が、だんだん大きく広がっていきばいい。」「骨髄バンクとかかわりは、偶然じゃないんだ、縁があったんだ。」って優しくいついた正やんの言葉で救われるような思いでした。こんな私でも、私でないといけない骨髄バンクなんだから。歌で慰められ言葉で勇気づけられた、コンサートをありがとうございました。



演奏する伊勢正三さんと中西俊博さん(右)



満員となった新都市ホールの聴衆



あなたに、 情報のちから。

驚くような事実も、社会を大きく変えるような発明・発見も、そこに心を動かされる人がいなければ、きっと世界の片隅に埋もれていただろう。

語り継ぐ人がいて、形にする人がいて、事実は始めて情報になる。そして遙かな時を超えて出会い、つながり、新たな進化を遂げる。歴史は、情報の物語。私たちは、そこに何をみだし、どのような形にして、次の世代へ語り継いでゆけばいいのだろうか。

NTTグループは電気通信の技術とノウハウをベースに、様々な産業分野に多彩な事業を展開しています。あなたが求める情報のちからを、あなたが求めるシーンに。未来へ語り継ぐべき物語を確実に形にしていきます。



パネル展を 実施して

神奈川・考える会
松尾 忠雄

全国協議会設立三周年記念事業の一環として、広く一般の人々を対象に骨髄バンク支援パネル展を九月八日より一二日まで横浜そごう地下二階新都市プラザで開催しました。展示されたパネルは骨髄バンクを支援する二名の著名人と二団体(鹿島アントラーズ)もあり、多くの人々の目を引きました。

この五日間、約四〇万人がパネル展前を通過しましたが開催中にバンド演奏を各方面の協力で行なった効果も大きく、パンフレットの配布などもスムーズに運んで多くの方々に骨髄バンク、骨髄移植について関心を持っていただけたように思われますし、ドナー登録希望者をはじめ、ボランティア志願者など大きな反響がありました。



パネル展会場では連日ブラスバンド演奏も!

各地の活動経験を交流 第二回全国代表者会議

等について論議されました。また、財団事務局の山崎次長から、ドナー登録者が二万八千人を超え、移植も四十二例になったこと、財団・日赤の三者協議も毎月定例になり、財団の各委員会も組織的になりつつあること、全国大会は十一月十一日に開き、柳田邦男氏の講演を予定していること、郵便局へのポスター



全国協議会は、九月十一日、三周年記念事業の一日目が終了後、第二回全国代表者会議を開きました。

会議には海部会長も出席し、秋田を除く全ての加盟団体が出席。さらにオプザーバーとして、群馬、富山、北海道の若小牧の代表者も参加しました。

会議では冒頭各地の活動報告と交流がされ、協議事項として、①未加入団体への働きかけと新規団体への助成 ②コーディネーターの養成 ③骨髄バンク推進月間へむけて

各地の たより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せ下さい。

千葉 骨髄バンク推進キャラバンを 実施

千葉連絡会は、八月二十三日から二十七日まで、十八の市町を回る骨髄バンク推進キャラバンを実施しました。行程自体は当初の計画とおりにはいかず、車はエアコンが無く、持参した携帯電話は通じにくく、最終日には台風の影響に遭遇したりと、数々の



中央骨髄データセンター登録状況

登録内訳	人数
1次検査実施済登録者数	28,424
2次検査依頼済登録者数(1次適合)	17,204
2次検査実施済登録者数	12,264
登録受け付け患者数	1,272
2次適合患者数	616
2次適合登録者数	1,740

平成5年9月10日現在

心からのご寄付を ありがとうございました

8月19日～9月24日まで

吉内和子	現金	20,000
多田そうべいチャリティコンサート	現金	145,001
佐藤操子	現金	5,000
阿原一良	現金	10,000
ほとんどの会	テレカ	10,000
松田有利子	現金	612
須田浩子	現金	245
匿名	現金	432
田村才子	現金	1,000
3周年記念会場募金	現金	223,594

(順不同 敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
東京 5-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会

日本骨髄バンクよ 遅しく伸びよ

公的バンク誕生以来本年三月末現在でドナー申し込み数は約三万人、HLA検査済の登録者二万人で厚生省の一年二万人の目標からすれば、約五〇〇〇人下回っている。昨秋マスコミで騒がれた麻酔事故で一時ドナー申し込みが減少したが、最近復調の傾向にあるのは喜ばしい。一方、患者登録数は九百余人、うち二十六人にHLA適合ドナーが見つかり、十人は既に骨髄移植を完了し、残りの十六人は近く移植予定の由。

三重 二つの部会に 別れて活動

勇気の会は、医師、看護婦、患者、患者家族、ドナー体験者、成分献血ドナー、行政関係者などを含むボランティアが、企画広報部、事業推進部、コーディネイト部と三つの部会に別れて活動しています。会報紙「いのち」の発行、シンポジウムの開催などが中心の活動です。二つの地域支部も発足しました。本年、骨髄移植とは、成分献血とは、などをわかりや

全国協議会顧問 服部純一(金沢大名誉教授)

と。支部努力の募金の一部は支部運営に還元するとよい。第二は、財団は月報で募金情報を出し、年報で会計報告を行うなどして献金者の善意に伝えるべきこと。第三はMLC検査を一企業独占委託とせず、有資格検査機関に分散して検査料の削減を図ること。第四は天下り人事を排し、有能かつ善意の人物を財団幹部に迎え、人事の透明、公正化により財団の発展を図ること。第五は、財団は全国骨髄バンク推進連絡協議会などのボランティアグループを信頼して十分これを活用すること。次に、日赤への注文は、ドナー募集、広報、調整等のバ

頭痛のタネ、肩の重荷、首がまわらない、不景気な顔、足の引っぱりあい、勇み足、骨肉の争い、明日胃カメラ、プレッシャー、取り越し苦労、空まわり、板バサミ、ムカムカ、イライラ、モヤモヤ、ムシャクシャ、ギクシャク、セクハラ、未練タラタラ、内気、エッチ、良心の呵責、永すぎた春、単身赴任、親子の断絶、理由なき反抗、五里霧中、四面楚歌、諸行無常、煩惱、出来心、退屈、理想と現実のギャップ、失意のどん底、お先まつ暗、不吉な予感、気のせい、ツキがない、楽しくないでお悩みの方に、フジテレビ。

骨髄移植の現場から

野村正満 編

患者や家族はどのように治療法を選択すべきか、移植医療の現状を第一線の医師らが報告した昨年のフォーラム「骨髄移植を学ぶ」のまとめと、バンク稼働後の課題を示す。

定価一七〇〇円(千三〇〇円)

海鳴社
東京都千代田区西神田2-4-5
電話 03(3262)1967